

住民による秋田市土崎港地区の居住環境評価とその要因

角 田 牧 子

キーワード：秋田市土崎港 居住環境評価 満足度 重視度

I 序論

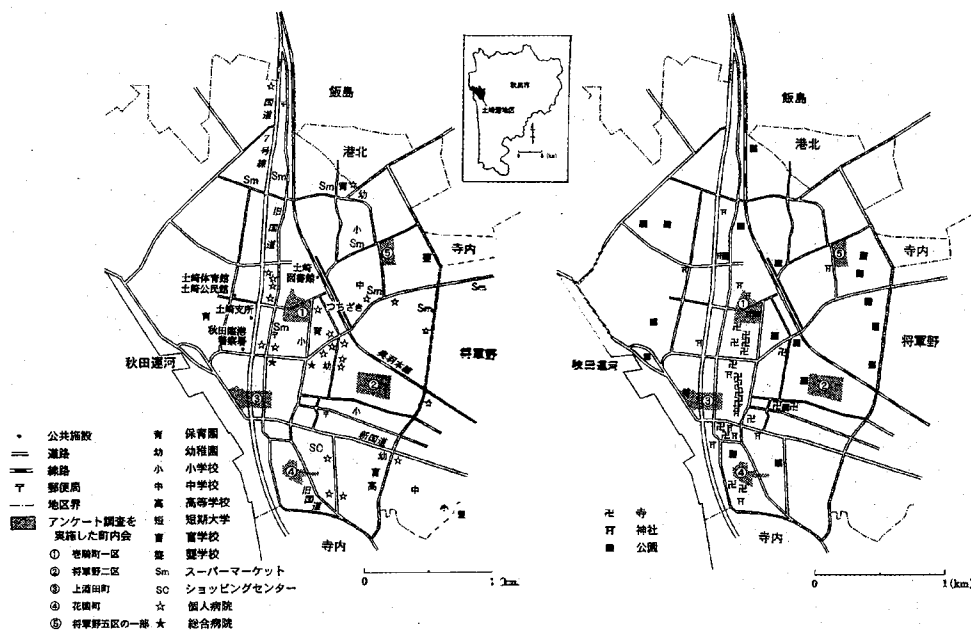
居住環境評価については江崎(1995)や田中(1997)などがあるが、まだ地域事例研究の数は少ない。また、個人属性が評価に与える影響もあまり考察されていない。以上をふまえ、本研究は具体的な事例地域において居住地の違いにより環境評価がどう異なるのかを、要因とともに明らかにすることを目的とする。

研究対象地域は秋田市土崎港地区とした。秋田市は秋田県内で最も人口が多く、政治・経済の中心である。また他の県や主要都市から離れており、その影響を受けにくい。土崎港地区は市役所の支所等の公共施設があり、秋田市北部の中心である。(第1図) 雄物川の河口に位置し、古くから港として栄えた。明治期は土崎港町として南秋田郡の郡庁所在地となった。だが1905(明治38)年に奥羽本線が全通

すると、港の機能は急速に衰えた。

1941(昭和16)年土崎港町は秋田市に編入された。1966年秋田市が新産業都市に指定されると港湾整備と工場誘致が進み、地区の西側は工業地帯となった。2003年10月の時点で土崎港地区の人口は21,975である。高齢化率は25.4%と秋田市全域の19.5%と比して高く、高齢化が著しい。また400年近い歴史を持つ、国の重要無形民俗文化財「土崎神明社祭の曳山行事」など独自の文化もあり、大変興味深い。

本研究は2004年4月～12月に実施した住民アンケート調査の結果を考察する。環境評価項目は「買い物」「交通」「医療」「教育」「安全」「自然」「静かさ」「環境」「近所」とし、各項目に対して現在どれだけ満足しているか(以下「満足度」)、生活上どれだけ重視するか(以下「重視度」)を5段階で評価してもらう。また居住希望地を記述する欄も設け、様々



第1図 土崎港地区の概観(2004年)

(秋田市発行2,500分の1国土基本図「秋田都市計画図(土崎港中央)」「秋田都市計画図(土崎港北)」(1996年測量)及びNTT 東日本発行「タウンページ秋田県中央」及び2004年4月の現地調査により作成)

な視点から土崎港地区の居住環境評価を探る。

調査は町内会を対象とし、個人属性の与える影響も探るため、回答者の年齢や性別には拘らなかった。対象町内会は、規模と相対位置を考慮し老騎町一区、将軍野二区、上酒田町、花園町、将軍野五区とした。規模が大きい将軍野五区は範囲を限定した。

II 土崎港地区における居住環境評価

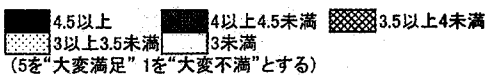
1. 町内会別に見た居住環境評価 (第2図)

1) 老騎町一区 (第3図)

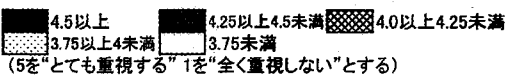
満足度評価は「交通」が高い評価を得ている。これは老騎町一区が土崎駅にもバス停にも近いためである。「医療」も評価が高い。老騎町一区の周辺には様々な診療科目の個人病院が多く立地しているため、高い評価を得られた。

評価が低いのは以下の3項目である。

「静かさ」は、どの道路沿いに住んでいるかで評価が分かれた。町内の中央を通る道路は、駅と国道7号線を連絡しているため車の往来が激しいが、他の狭い道路は車がほとんど通らない。「環境」も同様に、住宅の場所によって異なる。町内は間口が狭く奥行きのある住宅が密集しているため、場所によっては四方を住宅に囲まれてしまう。この2項目は、城下町起源の町の特徴が反映された結果となった。

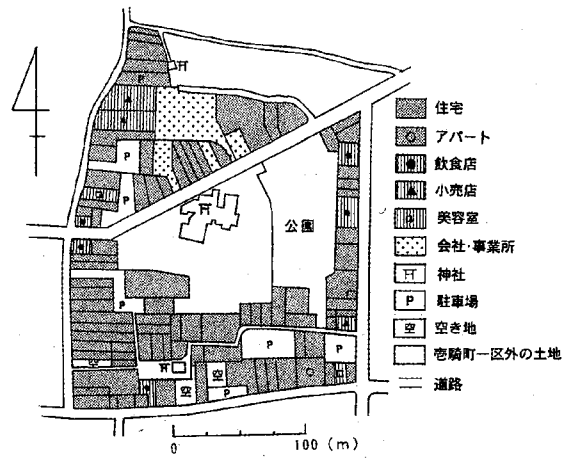


a) 満足度評価



b) 重視度評価

第2図 町内会ごとの居住環境評価の平均 (2004年)
(2004年4月~12月のアンケート調査により作成)



第3図 老騎町一区における土地の区画と利用
(2004年4月) (現地調査により作成)

「安全」の評価の要因は2つある。1つは町内に街灯が少なく、夜間は危険なことである。もう1つは、近年全国で凶悪な事件が多数発生しており、社会に対して不安を抱いている人が多いことである。

重視度評価は「医療」「安全」が高評価であった。

「医療」は、医療施設を普段利用しない人も重視し、高評価につながった。「安全」は、犯罪の多様化や交通事故を心配する声に加え、工業地帯での事故を不安に思う意見もあった。2002年から2003年にかけて近くの工業地帯で事故が3件発生している。

「交通」と「環境」は回答にばらつきがあった。「交通」を重視しない人の多くは「車があるから」と回答していた。「環境」は「昼間は家にはいないから」と低く評価する人がいた。この2項目は個人の考えや生活に影響されると思われる。「交通」に関しては、モータリゼーションの影響も考えられる。

2) 将軍野二区

満足度評価は、「静かさ」が住宅のみで騒音源がなく交通量も少ないことから、高い評価となった。

「安全」は、災害が起きていないこと、交通量が少なく事故の心配がほとんどないことから評価が高くなった。また人間関係が良く、防犯面でも近所の協力で安心できることも要因として考えられる。

「医療」は評価がばらついた。これは個人病院が近くにあるため高く評価する人と総合病院がないため低く評価する人に分かれたためだ。かつて秋田組合総合病院が土崎港地区にあったが、平成12年に飯島地区に移転してしまった。そのため通院が不便に

なり、緊急時の不安も大きくなったようだ。

「自然」は最も満足度評価が低い。隣接する公園を高く評価する人もいるが、住宅地で自然が少ないことを不満に思う人もいるため、ばらつきも大きい。

重視度評価はどの項目も平均値が高い。その中で、「交通」のばらつきの大きさが目立った。これは、自家用車の有無で評価が分かれたためである。

3) 上酒田町

上酒田町における満足度評価で最も平均値が大きいのは「交通」である。この町内には旧国道が通っているが、これがバス通りで運行本数も多いため、評価が高くなった。低評価なのは「自然」「静かさ」である。どちらも町内を通る大きな道路が悪影響を与えている。しかし「静かさ」に関しては「ある程度うるさい方がいい」と高く評価する人も見られた。

重視度評価では、満足度評価が低い「買い物」「自然」「静かさ」は今の居住環境にないものを求める傾向があった。だが「静かさ」に関しては「静かすぎても寂しい」と重視しない人もいた。満足度評価が低いと重視度評価は高いとは一概に言えない。

4) 花園町

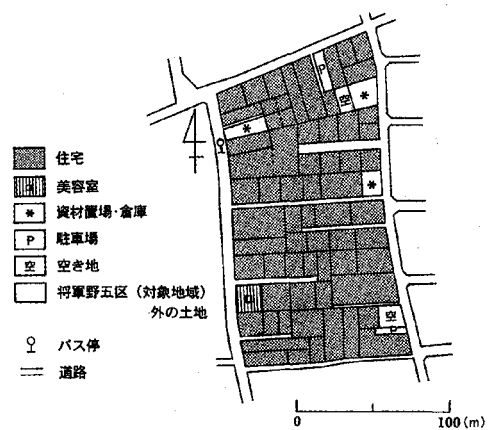
満足度評価は「買い物」と「静かさ」の評価が特に高い。「買い物」は、すぐ近くに大型のショッピングセンターがあり大変便利であるため高評価となった。「静かさ」は、町内会の立地が関係している。旧国道から奥まった所にあるため、騒音は聞こえない。また町内の道路は狭く、交通量は少ない。住宅地で騒音源もないため、評価が高くなった。

逆に評価が低いのは「自然」と「近所」である。「自然」は、町内に公園や神社など緑地がないことが要因と考えられる。「近所」は、町内会の活動があまり活発でないことや、歴史が浅く深い付き合いがしにくいことが要因である。長く住んでいる人は高く評価する傾向があるが、理由は見出せなかった。

重視度評価は「教育」が低い値を示した。これは、子どもがいない人にとっては学校や教育が身近ではなく、低い評価がされたためと考えられる。

5) 将軍野五区 (第4図)

満足度評価は、平均値が高い項目と低い項目に分かれた。平均値が高い「買い物」「交通」「医療」「教育」の項目に共通しているのは、評価の決め手



第4図 将軍野五区における土地の区画と利用 (2004年12月)

(現地調査により作成)

となるものが近くにある点である。「買い物」ならスーパーが、「交通」ならバス停や駅、というように、対象物が近くにあるため評価が高くなった。

「近所」は評価が低くなった。その要因として考えられることに、「地主との関係」がある。その関係に不満を持っている住民が少なからずいるようだ。

重視度評価は全体的に高い値を示した。最も低いのは「自然」だが、これは特に若い世代からあまり重視されていなかったため、低い結果となった。

2. 項目ごとにみた評価の要因

以下ではどの町内会でも共通する評価要因を項目別に検討する。

満足度評価では、「買い物」は大型スーパーマーケットやショッピングセンターが近いと評価が高く、ばらつきも小さい傾向がある。商店街や小規模なスーパーマーケットは評価に影響を与えていない。

「交通」については、地区全体で新国道・旧国道を中心にバス路線網が発達しているため、全体的に評価は高くなった。駅への距離や、運行本数をどう感じるかによって評価が分かれた。

「医療」は、周囲の病院数とそこまでの近接度、そして秋田組合総合病院の移転が影響している。また病院を利用する機会が多い高齢世代では、距離の遠近で評価が分かれる傾向がある。

「教育」は、教育施設、特に幼稚園・小学校への近接度が大きな要因となった。

「安全」は大きい道路や過去の犯罪発生の有無、工業地帯への近接度が関係している。自然災害につ

いては、どの町内会でもほとんど考慮されていない。

「自然」は、土崎港地区に大きな山や河川等がないため、公園の有無や樹木の多さが要因となった。

「静かさ」は、どの町内会も町内の建物の大半は住宅であるため、近隣の道路の交通量や、その道路から家までの距離によって評価が変わってくる。

「環境」は住宅の向いている方向や、隣の家との距離が評価の分かれ目である。また、工業地帯への近接度も、臭いの点で関係がある。

「近所」は、他の項目と異なり、個人の考えによるため、評価の明確な傾向は掴めなかった。

重視度評価は、「買い物」「交通」「医療」「自然」「環境」「近所」の平均値が近い値を示した。

「安全」は、生きていくうえで必要不可欠なことであるため、どの町内会でも評価が高くなった。

「買い物」「交通」「医療」「教育」は個人の属性が関係している。それぞれ、日常買い物に行くか、車を持っているか、病院を利用しているか、子どもがいるかどうかで評価に差が出た。

「自然」「静かさ」「環境」は今の居住環境にはないものを重視する傾向がある。ただし「静かさ」に関しては「夜だけは静かであってほしい」と低めに評価する人が多く、数値はあまり高くならなかった。

「近所」は満足度評価同様、個人の考えに拠るところが大きいいため、評価の傾向は掴めなかった。

3. 居住希望地の分類とその要因

居住希望地に町内会ごとの差は見られなかった。全体的に考察すると、大きく5つに分類できた。

①住みなれた場所、土地勘のある所

秋田市や土崎港、以前の居住地が挙げられた。

②雪がない所、温暖な所

仙台、静岡、千葉、沖縄などがあつた。また地名を挙げず「暖かい所」「雪が降らない所」とした回答も複数あつた。

③便利な所、都会

仙台や東京、東京に近い千葉も挙げられた。

④自然が多い所、緑豊かな所

北海道や富良野、沖縄などの回答が得られた。

⑤憧れや良いイメージ、印象のある所

北海道、京都、屋久島、沖縄などがあつた。

①は、居住環境をある程度把握しているという安心感と、土地への愛着が表れている。②は気候に対する不満、③は買い物や交通に対する不満、④は緑

の少なさに対する不満をそれぞれ反映した結果となった。つまり②③④は、現住地での不満が影響を与えている。⑤は個人の経験やメディアからの影響、趣味など個人的な要素が強いと考えられる。

IV 結論

本研究は、秋田市土崎港地区の居住環境評価が居住地によってどのように異なるのか、町内会ごとに考察した。その結果、以下のことが明らかになった。

1. 満足度評価は町内会ごとに明確な差があつた。「近所」を除く項目の評価要因は、どの町内会でも共通していた。町内会ごとの差異は、要因となるものの有無やそのものへの近接度などから生じている。評価の要因は自宅近辺や地区内に留まっている。またモータリゼーションや高齢化など、時代の変化や社会の状況などの影響を受けている項目もあつた。

2. 重視度評価は、町内会ごとに多少の差はあるものの、「買い物」「交通」「医療」「自然」「環境」「近所」の6項目の平均値はどの町内会も近い数値を示した。要因は項目ごとに異なるが、個人の属性や満足度評価が関係している。

3. 居住希望地は住み慣れた所・温暖な所・便利な所・緑豊かな所・良い印象のある所に分類できた。居住希望地から、土崎港に居住する人は土地への愛着が強い人が多く、また潜在的に買い物や交通の利便性、緑の豊かさ、雪が降らない温暖な気候を求めている事が分かった。

本研究のアンケートには、土地への愛着や気候に関する項目は設定していなかった。しかし土崎港地区の居住環境を明らかにする上で、これらは重要な事柄であつたと思われる。

現地調査の際には土崎港地区の皆様から温かいご協力や励ましを頂いた。本稿の作成にあたり、秋田大学教育文化学部の篠原秀一先生に終始貴重なご指導、ご助言を頂いた。末筆ながら感謝申し上げます。

文 献

江崎雄治 (1995) : 居住環境評価からみた住民の価値意識. 地理学評論, 第68巻, 168-179.

田中豪彦 (1997) : 土浦市における居住環境評価の空間構造. 季刊地理学, 第49巻, 137-150.